

永井英司（編）
完全腹腔鏡下胃切除術

エキスパートに学ぶ体腔内再建法 [DVD 付]

二宮基樹

広島市立広島市民病院外科

胃癌手術は郭清と再建から成る。郭清が不十分であれば長期予後を悪くするし、再建法が誤っていれば短期予後を悪くし時に致命的ともなり得る。

胃癌手術の最初の成功者がBillrothとされているのも、再建に成功し患者が術後状態から回復し経口摂取ができるようになり、日常生活に復帰し得たからである。

胃癌に対する腹腔鏡下胃切除術は、当初技術的にリンパ節郭清が難点とされていた。しかし、先達の粘り強い努力と工夫により、その技術水準はかつての開腹手術を凌ぐ水準にまで至った。

現在、残された課題は再建である。そして、急速に完全腹腔鏡下胃切除術の波が押し寄せてきた近年、それに対応した再建法が開発され工夫されてきた。

本書は、本邦のリーダー的外科医が執筆しており、これまで報告されてきた代表的な体腔内再建法を取り

上げている。

各再建法は1. 手技の実際、2. 手技の利点・欠点あるいはポイント、3. エキスパートからのアドバイスという3項目から成っている。各再建法の開発者が要点と盲点をわかりやすく紹介しているが、説明の文章は手術室での会話のように、簡潔かつ極めて実践的で臨場感に富んでいる。

各手技の肝となる重要なポイントでは、多くの鮮明な写真や美しい図による解説があり理解を容易にしていることも特徴の一つである。

さらに、理解を深く確実なものにするためにDVDも添付されており、手技の実際を映像で学ぶことができる。

本書を一読すれば、本邦の現時点における完全腹腔鏡下胃切除術に伴う体腔内再建法を把握することができ、読者にとってより魅力的と思われる手技を個々に選択することができる。

本書の格式をさらに高くしているのは総論である。BillrothのI、II法からRoux-en-Y吻合等の吻合法に加えて、リニアおよびサーキュラーステイプラーの歴史の変遷を興味深い多くの資料を図示しながら解説しており、外科医の基礎知識として極めて有用である。

また、近年進化の著しい手縫い吻合、縫合法の基本と実際も理論的実践的に詳述してある。体腔内再建を安全に行うためには手縫い縫合の技術習得は必須であり、今後その重要性はますます高まっていくものと思われる。基礎知識の理解が習熟度を上げるのに効果的と思われる。

本書は、体腔内再建法を学びたい、あるいは理解したい外科医にお勧めしたい良書である。

●B5/頁 216/2015 年

定価 本体 12,000 円＋税

[ISBN978-4-260-02103-6]

医学書院 刊